

旧葉原小学校 個別施設計画

令和3年3月

敦賀市教育委員会文化振興課

【目次】

1	策定の目的と位置づけ	
	(1) 背景	1
	(2) 目的	1
	(3) 本計画の位置づけ	1
2	計画期間と対象施設	
	(1) 計画期間	2
	(2) 対象施設	2
3	現状と課題	
	(1) 機能	2
	(2) 建物	2
4	基本的な考え方	2
5	施設の状態	3
6	対策内容と費用	
	(1) 対策内容と実施時期	3
	(2) 概算費用	3

1 策定の目的と位置づけ

(1) 背景

旧葉原小学校の校舎は、昭和60年度に建築された鉄筋コンクリート造2階建て建物です。葉原小学校は、平成17年度末で閉校し、その後、空き教室等を利用して敦賀市立博物館所蔵の民具を展示保管しています。

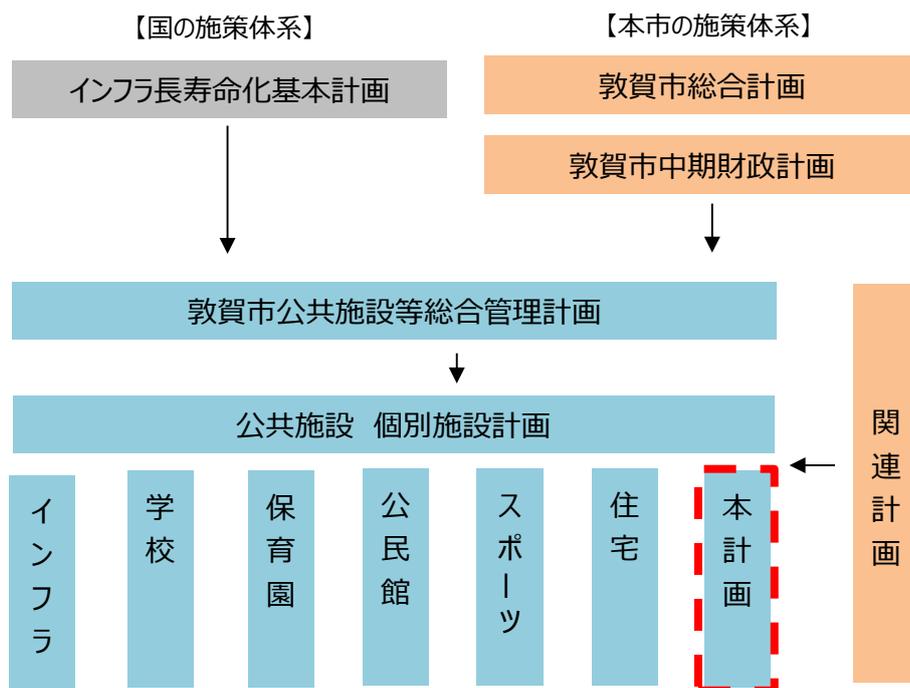
(2) 目的

「旧葉原小学校の個別施設計画（以下、「本計画」という。）」は、上記の背景を踏まえ、敦賀市公共施設等総合管理計画に基づく個別施設計画として、旧葉原小学校の管理に関する具体的な対応方針を明らかにすることを目的としています。

(3) 本計画の位置付け

本計画は、敦賀市公共施設等総合管理計画の下位計画となります。

図表1 本計画の位置付け



2 計画期間と対象施設

(1) 計画期間

本計画の計画期間は、令和3（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間とします。

なお、本計画は敦賀市公共施設等総合管理計画の改訂や社会環境等の変化を踏まえ、適宜見直しを行います。

(2) 対象施設

本計画の対象施設は、旧葉原小学校です。

図表2 対象施設概要

施設名称	地区	運営形態	延床面積 (㎡)	代表建築 年度	経過年	耐用年数	残耐用 年数
旧葉原小学校	東郷	直営	2,173	1985	34	34	0

3 現状と課題

(1) 機能

旧葉原小学校は平成17年度末に閉校し、学校教育施設としての機能は廃止しています。現在は、空き教室を利用して敦賀市立博物館所蔵民具を展示保管しています。

(2) 建物

旧葉原小学校は昭和60年度に建築された鉄筋コンクリート造2階建て建物です。

平成17年度末の閉校により、学校施設としての機能は廃止されたため、閉校後は建物維持のための必要最低限の維持管理を行っている状況です。

今後は、建物の利活用等の方向性が課題となります。

4 基本的な考え方

旧葉原小学校は閉校し、学校教育施設としての機能は廃止していますが、当面は避難所機能を保持し、適正な維持管理を行います。

現在、空き教室に保管している民具等を他施設に移した後の建物の利活用については、市全体で検討し、転用、譲渡又は除却を行います。

5 施設の状態

旧葉原小学校では、建築基準法による法令点検と、「敦賀市公共施設簡易点検マニュアル」に基づく年1回の目視点検を行っており、その結果は以下の通りです。

図表3 法令点検及び簡易目視点検結果

施設名	建築物	設備その他
旧葉原小学校	屋上、外壁、基礎、バルコニーが部分的に劣化	異常なし

避難所及び民具等の保管場所としての運営に支障をきたす修繕箇所はありません。

6 対策内容と費用

(1) 対策内容と実施時期

基本的な考え方や施設の状態を踏まえた本計画期間（10年間）における具体的な対策内容と実施時期は次のとおりです。

図表4 対策内容と実施時期

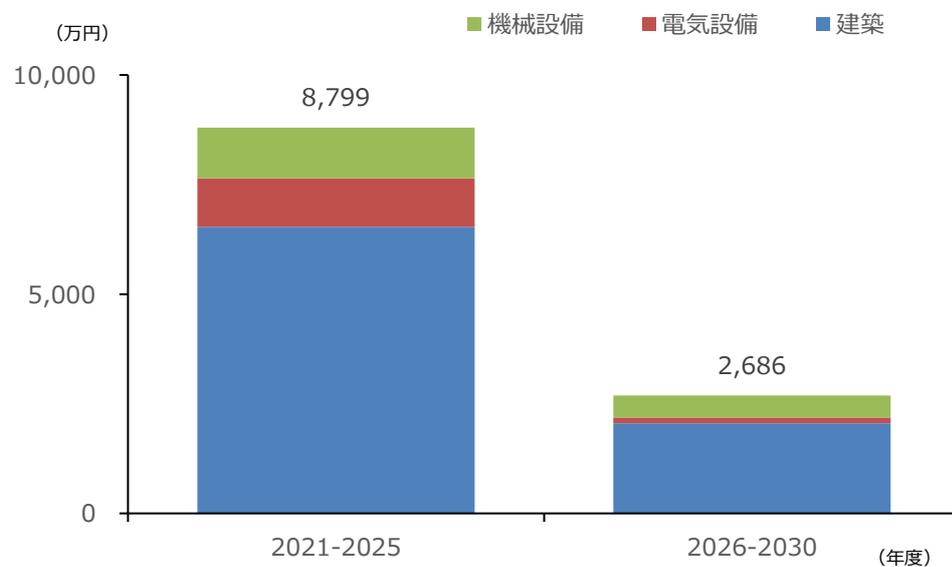
施設名称	方向性・機能	方向性・建物	2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030										検討段階
			現状維持					機能移転後、転用、譲渡又は除却を検討					
旧葉原小学校	廃止	転用等	現状維持					機能移転後、転用、譲渡又は除却を検討					検討中

民具保管場所としての機能は他施設に移転し、その後の建物の利活用については市全体で検討し、転用、譲渡又は除却を行います。

(2) 概算費用

本計画期間中に要する概算費用（維持管理費用除く）は耐用年数を超えた使用を見据えた場合、建築、電気設備、機械設備で合計11,485万円を見込んでいます。ただし、この費用は機械的な試算であり、今後の施設の状態等により変動します。

図表5 概算費用



※国土交通省官庁営繕部監修「建築物のライフサイクルコスト」の㎡単価に基づく試算。建築からの経過年により必要とされる額を算出した機械的な試算であり、「6（1）対策内容と実施時期」の内容とは連動していない。